

令和5年度美乃浜中学区（旧阿字ヶ浦中学区）市政懇談会

日時：令和5年7月9日（日） 10：00～11：30

場所：阿字ヶ浦ふれあい交流館

【事前質問】	2
1 阿字ヶ浦自治会 ひたちなか海浜鉄道の延伸について	2
（企画調整課回答）	2
2 阿字ヶ浦自治会 道路の冠水について	2
（道路管理課回答）	2
【懇談内容】	3
1 一般参加者 災害時の給水等について	3
（市民生活部長回答）	3
（水道管理者回答）	3
2 地域をつくる会 災害時の避難訓練について	4
3 地域をつくる会 道路の冠水について	4
（建設部長回答）	4
4 地域をつくる会 ふれあい交流館の備品購入について	4
（市民生活部長回答）	4
5 阿字ヶ浦自治会 阿字ヶ浦花火大会の補助について	5
（経済環境部長回答）	5
（市長補足）	5
6 一般参加者 金融機関や駐在所等の移転について	5
（市長回答）	5
7 地域をつくる会 教員の働き方改革の仕組みづくりについて	6
（教育長回答）	6
8 地域をつくる会 登下校時のグリーンベルトの通行について	7
（教育長回答）	7

【事前質問】

1 阿字ヶ浦自治会 ひたちなか海浜鉄道の延伸について

延伸申請の延長をしたが、計画についての方向性を伺いたい。新駅の予定地周辺は区画整理も進み、JX金属も誘致し、新たな工業団地の整備も予定されており、これから発展が予想される地区である。

(企画調整課回答)

ひたちなか海浜鉄道の延伸事業につきましては、令和3年1月15日に国から「事業許可」を取得し、その際、令和4年1月14日までに、工事を行うために必要な「工事施行認可」の申請を行うこととされていましたが、コロナ禍の影響により、関係者等との協議を延期せざるを得ない状況が長らく続いたことから、工事施行認可申請期限を令和5年3月31日に延長することについて、国から許可をいただきました。

しかしながら、延長後の期限までの申請についても、コロナ禍の長期化に伴い、図面を使用した対面での打ち合わせができない時期が続くなど、関係機関等との調整に想定以上の時間を要したことで全体的に設計作業が遅れたことに加え、昨今の物価上昇等の社会情勢の変化による資材の価格高騰等を踏まえ、事業費の上振れを極力抑えるために工事手法の再検討を行うなど、工事計画の策定に時間を要したため、期限までの申請が難しい状況となりました。そのため、再度、工事施行認可申請期限の延長申請を行い、令和6年3月31日まで延長することについて国に認めていただいたところです。

現在は、残りの設計作業と、事業費の上振れを極力抑えるため、構造物の高さを下げることや橋の長さを短くすること、工事手法として高架区間を補強盛土に一部変更する検討を行うなど、安全を最優先にしながら構造や工事手法等の再検討を行っております。

市といたしましては、まずは延伸事業を進めるために必要な工事施行認可の取得に向けて、設計作業や国との協議を進めるなど、ひたちなか海浜鉄道と協力して延伸事業を進めてまいりたいと考えております。

2 阿字ヶ浦自治会 道路の冠水について

道路側溝の詰まりによる冠水対策を検討してほしい。

(道路管理課回答)

当該側溝の排水は市道湊北部地区253号線から市道湊1級5号線に合流し、県道磯崎港線へと北へ向かって流れていますが、1級5号線は上流側の側溝断面が小さく、流れが緩いため、大雨時には排水処理が間に合わず冠水しておりました。現在は、合流部に集水柵とポンプを設置し、圧送管にて排水することで、一定の効果が見られますが、台風やゲリラ豪雨の際には、一時的に冠水してしまいます。冠水しますと水が引くまでに時間を要

しますので、今後もポンプ等の点検を適時行い、冠水対策に努めてまいります。

【懇談内容】

1 一般参加者 災害時の給水等について

東日本大震災の時、3日間市からの給水、配布が全く無かった。まずは水の確保が最優先である。企業やコミュニティの協力を得て、非常用飲料水の配布をするなど善処してほしい。

（市民生活部長回答）

災害時の1番の課題というのは、やはり水の問題でございます。東日本大震災の時は最大で2週間断水が続いてしまったという反省に立ちまして、市では、強靱な水道施設というものを、新たに整備して運用をしているところです。ご提案もありましたが、市の方では、水、食料品を含む生活物資の提供をいただける14の民間事業者、スーパー等の事業者と協定を締結しております。

また独自に、ペットボトル水、4万6308リットルを備蓄しております。それと地域で小まめに給水活動ができるようにということで、各自治会にご協力をいただきまして、フレキシブルタンクという大きなビニール袋をイメージしていただきたいと思っておりますけども、それを配布して、水を運搬していただき、地域に戻って蛇口をつけて、給水活動をしていただくと、そのようなご協力をいただくこととしております。

東日本大震災を経験した中では、それを踏まえて、市としても防災対策の強化をして参ったところです。大震災までは、市内に、59か所避難所ありますけども、それを一斉に開設したということはありませんでした。市のこれまでの震災前の体制というのは、やはり那珂川の、昭和61年の夏の水害をもとに、備蓄を考え、整えていたということで、6000人分の備蓄しかなかったというのが、反省材料でありました。

その後、協定ですとか、備蓄数の見直し、こういったものも自治会の協力もいただきながらですね、今取り組んでいるというような状況です。

（水道管理者回答）

12年前の震災の時には、確かに勝田地区は2週間程度断水いたしました。湊地区はもう少し早かったと記憶しておりますが、正確には覚えていませんので明言はできませんが、いずれにしても市民の皆さんに、大変ご迷惑をおかけしました。その反省に立って、まずは市で大規模な断水が起きた場合に、皆さんにどうやって水を提供するかと、先ほど市民生活部からも概略は申しましたが、基本的には二つの系統で考えております。

一つは、例えばこの阿字ヶ浦地区で断水が起きた場合、このふれあい交流館に市が直接、1トントタンクを持ってきます。そして、各自皆さんが、給水活動を行っていただくという

方法です。

それともう一つは、自治会ごとに自主防災活動ということでお願いしております。84の自治会がありますけども、100基ほどのフレキシブルタンクで配るというものです。まず、自治会の方のトラックで、タンクを運搬していただいて、市内3ヶ所で給水します。最寄りでは上ヶ砂の配水場になりますが、そこに来てもらって、給水してタンクを持ち帰っていただき、皆さんにお配りするという活動をお願いしております。

いずれにしても、水を配るときには、ペットボトルなどの容器を各家庭で常備していただきたいと思います。

それと、先ほどご提案ありました、飲料水の袋という話がございました。それについては、ご要望ということで承ります。

災害時の休止活動の流れについては、市ウェブサイトにも公開しておりますので、是非、一度ご確認いただければと思います。よろしく願いいたします。

2 地域をつくる会 災害時の避難訓練について

災害時の対応については、市民会議の議題としても話している。自治会とコミュニティ、消防、市役所とで避難訓練を行いたいと考えているためよろしく願いしたい。

3 地域をつくる会 道路の冠水について

事前質問に対し、ポンプで排水することだが、自然流下が原則で、ポンプでの排水は最後の最後の手段ではないか。側溝の勾配が取れるようにするためには、かなりの費用がかかるというのも分かるが、以前から地域では問題になっている場所であり、検討できないものか。

(建設部長回答)

今のところポンプでやっているところですが、様子を見ながら検討させていただければと思います。

4 地域をつくる会 ふれあい交流館の備品購入について

避難所となっており、災害時の避難情報を得るためにもテレビの設置ができないか。

(市民生活部長回答)

テレビの購入については、担当の方から聞いてまして、今年度予算で、購入いただいても結構ですよというお話をさせてもらっておりますが、やはりその交流館の中でも、優先順位があるようですので、お話しの上、対応していただきたいと思います。それと、大きな備品については、9つのコミで順番に宝くじの補助金を使って、大口の補助を行っているんですけども、来年度、阿字ヶ浦中学区に250万円の補助を計画しておりますので、

それらもご活用いただければと思います。

5 阿字ヶ浦自治会 阿字ヶ浦花火大会の補助について

花火大会について、実行委員会で一日開催ではなくて、何日間か続けて行えないか議論になっているが、補助に該当しなくなるのではという課題がある。市で補助の在り方について検討できないか。

(経済環境部長回答)

市内では、ひたちなか花火大会、那珂湊海上花火大会、阿字ヶ浦花火大会でそれぞれ開催が予定されていると聞いております。開催方法については、それぞれ実行委員会で検討されていると思いますが、補助金については、商工会議所を通して行うことになるので、その中で、協議させていただいた上でと考えています。

(市長補足)

花火に限らず、ひたちなか市ではいろんな補助金を創設させていただいております。コロナ後のあり方として、やり方が変化をしていくということに関しては、一定の理解もさせていたどうかと思っています。

しかし一度、何のためにこの補助金を出させていただいてるのかという大きな目標に関しては、しっかりとらえた上で、検討させていただきたいと思っています。例えば、花火に補助金を出しているということじゃなくて、にぎわいの創出と市内経済の活性化だとか観光客への誘致であったり資する事業として補助対象となっているんですね。

要は、その物事だけを見るのではなくて、どういう目的に対してどういう効果をねらって、補助金があるのか、交付要綱の中にも明記されている部分がありますので、そこポイントを外さずに、外さない中でどういうやり方が可能かということであれば、十分その趣旨に沿った形で、変えていくこともできると思いますので、根幹を少し議論をさせていただいた上で、話をかみ合わせていきたいなと思っていますから、決して花火のことだけではなく、私市長として、いろんな補助金がある中で、コロナ後に変わっていく、そのまちのありように対して、ポイントを指摘をさせていただいたということをご理解ください。

6 一般参加者 金融機関や駐在所等の移転について

JAの窓口や駐在所が移転して住民は不便している。市としてどう考えるか。

(市長回答)

まちづくり全般ということで私の方でお答えしますが、岡部さんおっしゃられたように、金融機関であったり、郵便局などそれぞれの組織の中のことで、なんとも市で関与するのは難しいんですが、ただ、利便性をどうつくっていくのかという話の中で、区画整

理であったり、人の集積をどうつくっていくかであったりとか、企業が立地することによって新たに住んでくれるなどのビジネスチャンスが生まれてきたりとか、こういった誘導をしっかりと行って賑わいをつくっていくというところで、まちづくりの方を考えていかなければいけないだろうなと思っております。

併せて、ご年配の方、またデジタル化の話になるかと思えますけれども、市のいろんな手続きも、コンビニであったり、携帯電話などで、割とできるようになってます。

あと金融もほとんど、窓口に行かずに、携帯電話である程度の手続きができます。企業の方もそういうふうに移転をしてきているところです。特に民間はそういう流れが早いというところもあります。

じゃあ置いてけぼりかみたいな話もあるかもしれませんが、ぜひ、それぞれにおかれまして、お子さんやお孫さんも含めて、ご理解をいただきながら、活用していただくというそれぞれのご努力も、お願いしたいなと思っております。

いずれにしても、無くなってしまったものに関して、寂しいであったりとか、また、やはり欲しいというような思いはあるかと思えますが、あくまで市としては、まちづくりとして、いろんな基盤を整備しながら人に張りついていただくという、動きを活発化させていこうというふうに思っておりますので、それをもって、今回のこの質問に関しては、回答に変えさせていただこうと思えます。ご理解ください。

7 地域をつくる会 教員の働き方改革の仕組みづくりについて

美乃浜学園の学校運営協議会で副委員長をしている。要望としてになるが、美乃浜学園では、児童の通学や土日の地域イベントへの参加の際、先生方が随行をしており、教員の働き方改革を進める上で校長も苦慮している。学校の運営は個々の校長がということもあるのかもしれないが、現場では頭を悩ませている部分でもあるので、市教育委員会としてもPTAやボランティアを巻き込んだ仕組みづくり、ルール作りなど音頭をとっていただきたい。

(教育長回答)

ご意見ありがとうございました。学校のことを想っていただき、ありがとうございます。

ご指摘の通り、先生方の働き方改革をどう進めていったらいいのかと、各学校の校長先生たちが頭を悩ませている現状はあります。国からも時間外を1ヶ月45時間以内に、80時間以上はデットラインですよというメッセージが来ていまして、調査なども何回も来ています。とにかく、先生たちが余裕を持って、子供たちと向き合ったり、また子供たちも余裕を持って生活する。そして、先生たちが良い授業や、教育ができるように、自己研鑽の時間も作る、そういうことが大きな目標です。

私が若い頃は、今以上に子供の数が多かったし、授業も多かったぐらいだったんですが、もっとゆとりがあったなと思えますが、今はなかなか、ゆとりがない。

すべてが、先生で学校でお願いしますとなってしまっていて、とにかく頑張ろうという時期がありました。それを今は、みんなの力でという方向に変わってきております。

そういった意味で、コミュニティスクールという、地域の方、学校、PTAなどで、学校経営について話し合うシステムが、2年前からできています。今年度は、教育委員会に社会教育主事が配置されましたので、そこを中心に、各学校の共通の悩みは校長会で話し合っていて、ある程度の情報交換や共通理解を促していきたいと思っております。

市内の学校の中には60名～70名のボランティア登録者がいる学校もあります。学校によって、意識が違うし、色も違うし、問題が違う、課題も違うというのがございまして、一律にということは難しいかもしれませんが、そういう情報を共有するということは非常に重要です。PTA同士でも情報共有するということも大事なことでございますので、投げかけしていきたいなと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

8 地域をつくる会 登下校時のグリーンベルトの通行について

美乃浜学園の生徒が下校時にグリーンベルトから大幅にはみ出して下校しており、危険を感じた。

(教育長回答)

ありがとうございます。登下校に関しましては、道路等の環境の問題もありますが、子供たちの意識の問題も改善していかなくてはならないと思っております。

夏に通学路の危険箇所を確認、点検するタイミングがありますので、まず学校で点検をしていただいて、学校によって、子供も一緒に行くところもありますので、話し合いながら、やはり周りを見ること、自分の安全は自分で守るということが、大事なことでございますので、そういうところをもう一度見直すように、提案していきたいと思っております。